

編集：山田浩司 & 美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp

ララミーの再会

デビッド・ロッキングハウス応援ツアー



背番号 20 がデビッド

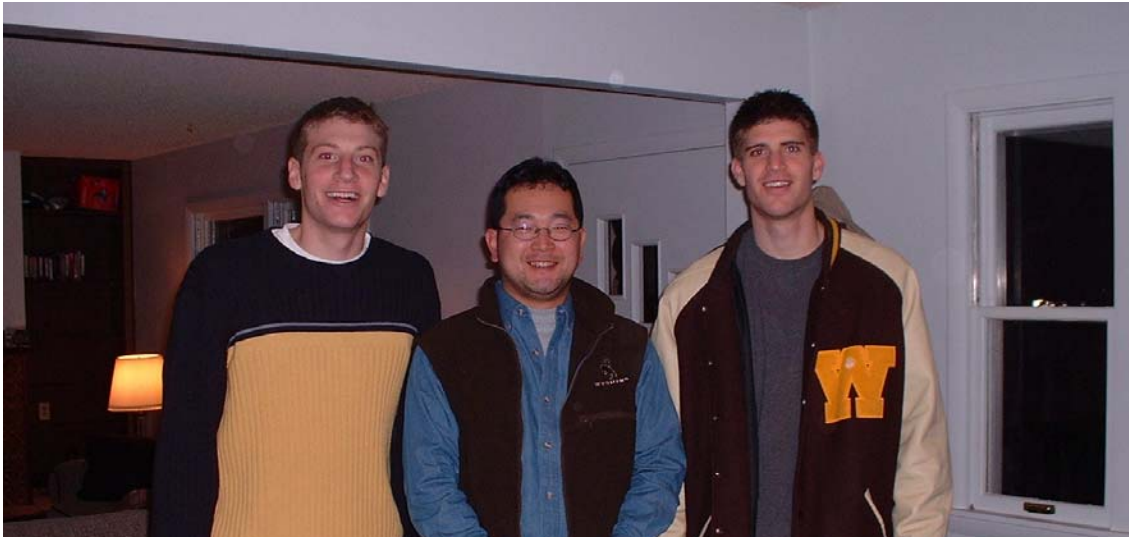
後でもふれるが、年末年始のネパール行きがなくなり、一時帰国の日程も短縮せざるを得なくなった。世銀への休暇取得申請は当初計画通りで承認されていたので、クリスマスの時期はアメリカ国内にはいなければならなかった。

そこで考えたのは、一人身の気軽さで、ワイオミング大学のバスケットボールの試合観戦に出かけることだった。大学のあるワイオミング州ララミーは、ワシントンから飛行機で行く場合、入り口となるコロラド州デンバーから車で3時間弱だ。西部の大平原とロッキー山脈との間にある盆地状の高原にある小さな町で、人口は27000人しかない。

なぜワイオミング大学なのかというと、私の16年来の友人であるロッキングハウス夫妻の長男デビッドが、同大学のバスケットボール部に所属していたからだ。

私がポールとマーゴと知り合ったのは、1986年2月下旬、ニューオーリンズのフレンチクォーターにあるジャズバーで、たまたま同じテーブルで同席したのがきっかけだった。以来、私が彼らの住むアイオワ州チャールズシティに2度お邪魔し、彼らも日本に来て1990年の元旦を私の岐阜の実家で過ごしている。初めて会った頃は、デビッドは未だ3歳だった。

デビッドはハイスクール時代にアイオワ州北東部のリーグ記録をことごとく塗り替える大活躍で、幾つかの大学からスカウトを受け、2000年にワイオミング大に入学した。昨シーズンは、1年生ながら先発ポジションで大活躍した。ワイオミング大の試合は、全米カバーするケーブル局が時々中継しており、直前になるとマーゴが必ず電子メールで知らせてきた。



身長差をご覧あれ。画面向かって左側がデビッド、右側がチームメイト兼ルームメイトのマーカス・ベイリー

今年も例によって、試合のテレビ中継の連絡がマーゴから来た。南カリフォルニア大との試合をテレビで見た後、所属カンファレンスの試合じゃなかったからかもしれないが観客席に空席が結構目立ったことや、席にこれくらい余裕があるならいずれ私たちもララミーに応援に行こうかな…ってなことを感想で書いて、マーゴに返事した。マーゴはすぐに大学の試合日程表を送ってきて、1月、2月は寒くなるから、観戦に行くなら12月が良いと助言もくれた。

なぜマーゴがこんなに親バカなのかは、ワイオミング大学のホームページを見てすぐわかった。そこには、バスケット部所属選手のプロフィールが詳細に紹介されており、デビッドがアイオワで2年連続 MVP に選ばれたことや、昨年、同大学が所属する Mountain West Conference (西部山岳地域リーグ) の Academic All Conference Member (リーグ所属のバスケット部選手で最も学業成績優秀な5人のメンバー) に同大学から唯一選出されているのだ。「運動も勉強もこんなにできる息子を持ったら、自慢したくなるのもわかるよね。」と美澄は感心しきりだった。(樹生君、期待に応えてあげてよね!) なんと、去年は全試合応援に行ったらしい。ポール達がアイオワから乗って来ていた車は、既に走行距離が20万マイルを越えている。

私は、12月21日の早朝のフライトでデンバーに入り、レンタカーを借りてララミーに向かった。アイオワから応援に駆けつけたポール&マーゴとはホテルで落ち合い、ララミーから車で1時間ほどのところにある州都シャイアンのハンク&サンディ・ベイリー夫妻宅で夕食をご馳走になった。ベイリー夫妻の三男マーカスは、デビッドの大親友で、チームメイト兼ルームメイトでもある。同市で弁護士を営むハンク氏も学生時代はバスケットの選手で、バスケットを語る口調に熱がこもる。現在の監督へはい

いろいろと不満があるようだが、結局のところは、ジュニアカレッジからの編入生を即戦力としてチームを固めるのではなく、1年生から地道に育てて行く方が結束力の強いチームができるということなのだろう。シャイアンでは、毎年夏に全米ロデオ大会が開催され、そのためのスタジアムもある。今度は是非夏にもいらっしやいとお誘いいただいた。

22日の試合当日、午前中は時間をもらい、ジョギングをしてみた。海拔が2000m以上ある高原地帯らしく、雲が低く見え、ロッキー山脈からの吹き降ろしで、風が非常に強い。気温も日中で既に氷点下だ。寒さも風も厳しかったが、日頃の練習不足がいちばんこたえた。ララミーの海拔は、マラソンの高橋直子が練習しているコロラド州ボルダーよりも高いが、息苦しさはあまり感じなかった。

午後は、ロッティングハウス夫妻と昼食を取った後、デビッドの家の照明の修理を手伝った。この家はデビッドが買ったものだが、友人に部屋を貸して、共同生活をしている。ルームメイトやそのガールフレンドもいたが、照明の修理をポールがやっても誰も手伝わず、テレビゲームに興じていた。そんなものなのかなと思ってしまった。余談になるが、デビッドとマーカスは、試合後30分もしないうちに家に戻って来た。私はカレッジ・スポーツ選手というのはそれなりにプロ的にストイックな生活を送り、試合前のスカウティングとか、試合後の反省ミーティングとかしっかりやるのかと思っていたけれど、デビッド達を見ていると、ちょっと試合に行ってくるという感覚で、一般学生との垣根が殆どなく、意外に食事に無頓着だし、両親にも甘えている。どこの国でも学生は学生なのだと考えを少し改めざるを得なかった。

田舎町の娯楽といえばおらが町の大学の試合だ。ましてや、厳寒の地ララミーでは、冬の娯楽は極端に限られる。ワイオミング大学のバスケット部はそこそこ強いので、学内にバスケット専用の体育館を持っていて、試合となると、地元の住民、学生、選手の家族などが大挙して駆けつける。観客も殆どが知り合いだ。プロ・スポーツとは違って、ほのぼのとした盛り上がり方である。選手の入場も、プロみたく選手1人1人が名前を呼ばれ、拍手と大歓声を受けて入場して来る方式ではなく、大学の旗を掲げたチアリーダーを先頭に、観客の手拍子とともに選手全員が小走りに入場してきて、コートを一周する。(ワシントン周辺の大学は、どこも全米ランキングで上位に入る強豪校揃いで、地元でスカウトされた選手も少ないので、ちょっと雰囲気が違うかもしれない。) 試合の方は、格下のアラスカ大学アンカレッジ校相手に79-63の楽勝だった。

監督が48時間の休暇をくれたということで、デビッドは、試合後、同郷の友人で同大バスケット部のマネージャーをしているトロイと一緒に、両親の運転する車でアイオワに向かった。1人残った私は、ララミーでもう一泊し、23日にワシントンへ帰った。ポールとマーゴ、そしてデビッドとは1995年8月以来の再会で、短い旅だったけれどもとても充実した3日間になったと思う。冬場のバスケット観戦に家族を連れて来るのは寒すぎて大変だろうが、夏であればワイオミングを再訪してみてもいいかもしれない。(浩司)

夢と消えたネパール行き 和平はいつ実現するのか・・・

この年末年始、私達が日本で過ごすことは先月号の「サンチャイ通信」で述べた。その中ではふれていないが、実はこの年末年始、私だけは、日本の非政府組織(NGO)「シャプラニール—市民による海外協力の会」主催のスタディツアーで、1週間少々カトマンズに行く計画を立てていた。ワシントンでの私の仕事は、途上国の貧しい人々ではなく、世銀に資金拠出してくれる先進国政府の方を向いたものだが、信託基金絡みの贈収賄事件対応とか、信託基金改革や組織改編の動きは、それはそれで重要なのだろうが、内向きの議論に虚しさも覚え、自ずと途上国の現場の空気が恋しくなった。ただ、仕事柄日本のNGOについては、JICAにいた時以上に学ぶ必要にかられており、スタディツアーという機会を利用して開

発に関心を持つ日本の一般の方々とお話をさせていただきたかったこともある。

私が JICA ネパール事務所に勤務していた時は、担当プロジェクトが殆どカトマンズ盆地の外にあり、カトマンズ盆地の中でその萌芽が見られた生活環境改善や女性の所得向上事業等は、興味があっても見る機会がなかった。シャプラニールは SOUP という現地の NGO を通じて、市街地の生活環境改善事業を支援しているが、その支援内容は、SOUP の常勤スタッフ 2 名（たったの 2 名！）のうちの 1 名の人件費補填のみで、さほど大規模な活動ではない。スタディツアーでは、SOUP の活動だけではなく、カトマンズ周辺の女性の生活向上を支援する現地 NGO の活動もいくつか見学することになっていた。

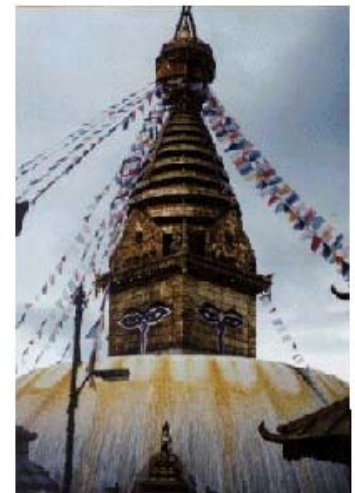
ただ、ネパール行きには問題が 2 つあった。1 つは JICA 内での手続の問題。私は現在 JICA を休職して世銀の指揮命令系統下にあり、有給休暇の範囲内であれば、どこに行っても何をやろうが本人の責任ということになっているが、JICA から見ると私は「連携協力調査員」という「JICA 関係者」である。テロの危険が常に伴う今のアメリカの状況を考え、私がこのネパール行きとその前の一時帰国について、JICA にどう事前連絡しておくべきか、ワシントンの JICA 事務所に問い合わせた。ところが、事務所内でも、「JICA がとやかく言う筋合の話ではない」という意見と、「休職しているとはいえ JICA 職員なのだから、専門家や派遣職員の規程を準用して、きちんと事前に申請を上げてもらうべきだ」とする意見に真っ二つに割れた。私自身は、承認してもらえることが前提なら申請を出すのはやぶさかではなかったが、旅行期間的に本部承認を得なければならぬので、申請がぎりぎりになったのは、私の申請が遅れたからではなく、事務所内での意見の調整に手間取ったからであると断言して欲しいと事務所には要望した。

もう 1 つはネパールの治安の問題である。11 月にデウバ政権と左翼ゲリラ（マオイスト）との対話が決裂し、マオイストは人民戦争の再開を宣言した。ネパール各地でゲリラによる襲撃事件が起き、ゲリラ、警察双方に多大な犠牲者が出た。私は最初のうちは、ツアーで行くのはカトマンズ周辺で、特に環状道路内については外務省危険度が未だゼロなので、行けるだろうと楽観視していた。しかし、12 月 5 日になってとうとう外務省は環状道路内の危険度を 1（観光旅行自粛勧告）に引き上げた。すぐに JICA はそれに反応し、職員の業務目的外渡航を自粛させる旨の通達を出した。

こうなると、もう自分としては従わざるを得ないだろうと覚悟した。シャプラニールに辞退の連絡を入れるとともに、当初 12 月 21 日出発だった一時帰国の日程も、25 日出発に遅らせることにした。本邦滞在日数が 10 日以内ならば在外事務所長権限でできるから、本部にショートノーティスだととやかく言われることもないだろうと考えたこともあるが、それ以上に、私にとっては、今回のスタディツアーに参加できないなら、日本にどれだけ長く滞在してもあまり意味がないと考えたことの方が大きい。12 月 8 日になって、シャプラニール側でツアー中止の決定を下したことで少しは救われた気がした。

実は今回のネパール行きで密かに期待していたのは、私達が世話になった我が家のスタッフに会うこともあった。半日とはいえ自由時間があったからだ。特に、KC とシータが第 1 子、2 子を亡くした後、1 回の流産を経てようやく設け、私達が名付け親になった「エミコ」が、どれくらい大きくなっているか楽しみにしていた。

私達は、樹生が 10 歳になったら、家族全員でネパールに出かけ、「樹生」の名前の由来である荒れた山々を子供達に見せて、途上国の人々の直面する問題を子供達なりに考えてもらおうと考えている。できれば、レンタカーを借りてチサパニに行ってみたいのだが、それまでにネパールの平和は実現するのだろうか。昔、樹生を背負って登ったゴルカの旧王宮周辺は、マオイスト活動の活発化で現在は観光旅行禁止勧告が外務省から出されている。旧王宮から見たマナスル峰が懐かしい。（浩司）



BCSランキングの大混乱

ルイジアナ州立大学の一番狂わせ

11月下旬にもなると、大学のアメリカンフットボールは最盛期を迎える。8月末から12月初旬にかけて、1チーム平均11~12試合を戦う。毎週全米ランキングが発表され、レギュラーシーズン終了時にランキング上位にいたチームや、所属するカンファレンス（リーグ）で上位にランクされたチームを中心として、12月下旬から、全米各地で「ボウルゲーム」が開催される。そして、1月に入って開催されるフィエスタボウル、オレンジボウル、シュガーボウル、ローズボウルが「4大ボウル」と呼ばれ、例年そのうちの1つが全米王座決定戦と位置付けられる。今年の場合は、パサデナのローズボウルが全米王座決定戦となる。

全米ランキングには、「Associated Press (AP)」と「USA Today」の2つがあり、それぞれスポーツ記者とカレッジフットボールのコーチの投票によって順位が決められているが、往々にして両者の順位に相違が見られ、全米王座決定戦出場チームの選出に水をさしてきた。また、特定チームだけが突出して強くて他がランク外の弱小チームばかりというリーグの場合、リーグ優勝チームが仮に全勝しても本当に強いとは限らない。そこで、日程の強度や攻撃力と守備力のバランス等の客観的データを元にして誰にも文句言わせないランキングを導入しようという機運が高まり、1990年代半ば、「Bowl Championship Series (BCS)」ランキングが新たに導入された。

去年までは、BCSランキングは有効に機能した。なぜなら、レギュラーシーズンランキングで本当に強いと言われたチームが順当に勝ち続け、全勝同士の王座決定戦になったからだ。ところが、今年は序盤から一番狂わせが相次いだ。11月第3週まで全勝で1位だったネブラスカ大が、既に2敗していたコロラド大に大敗し、Big12リーグの優勝決定戦への途を絶たれる。翌週1位に上がったのは全勝のマイアミ大、2位は1敗のフロリダ大だった。しかし、フロリダ大は12月1日に同じく1敗のテネシー大に惜敗し、SECリーグ東地区の優勝を逃した。勝ったテネシー大は、12月8日のSEC優勝決定戦に勝てばローズボウル行き間違いないと言われていたが、SEC西地区優勝ながら全米20位、既に3敗していたルイジアナ州立大 (LSU) に大敗してしまった。



これでBCSランキングはグチャグチャ。記者やコーチ投票で2位、3位に上がったのは、PAC10リーグ優勝のオレゴン大 (10勝1敗) と、Big12優勝を果たしたコロラド大 (9勝2敗) だったが、なんとBCSが2位に選んだのは、Big12優勝を逃したネブラスカ大 (10勝1敗) だった。コロラド大からすれば、所属するリーグで優勝できなかったチームがなんで全米王座決定戦に出られるのかと文句タラタラだ。BCS管理者の言い分がふるっている。ネブラスカ大がシーズン序盤に大勝したテキサス基督教大が、12月8日に別のチームを相手に強い勝ち方をしたので、ネブラスカ大のスケジュール強度が上がってしまったのだと。

でも、BCSなんて私にとっちゃどうでもいい。我がご鼻頂のLSUは、レギュラーシーズン序盤に3敗して一時ランク外に去っていたが、終盤5連勝して見事SEC優勝、ランキング12位にまで戻り咲いた。SEC優勝チームとしてニューオリンズのシュガーボウルに出るのは、なんと私がLSU留学から戻った直後の1986年シーズン以来のことである。

もう1つ、ワシントン地区の住民にとって驚きだったのは、1994年以来ボウルゲームにすら出たことがなかったメリーランド大が、開幕から連勝を重ねてACCリーグを制し、オレンジボウル出場を決めたことだ。1990年代始めにフロリダ州立大がACCに加盟して以降ずっと同大が独占してきたACC王座を初めて奪取した。メリーランド大がACCを制したのは1987年以来、4大ボウル出場は1977年以来だ。

2001 年は、年明けからバスケットボールチームの NCAA トーナメント準決勝進出で湧いたメリーランド大は、インターネットを活用した遠隔地履修制度でも全米をリードするアカデミックな大学でもあるが、アメフトの活躍でもワシントンっ子が盛り上がったことは言うまでもない。(浩司)

4 大ボウルゲームの結果 (速報)

- フィエスタボウル (1 月 1 日) オレゴン大② 38-16 コロラド大⑨
- シュガーボウル (1 月 1 日) LSU⑦ 47-34 イリノイ大⑫
- オレンジボウル (1 月 2 日) フロリダ大③ 56-23 メリーランド大⑪
- ローズボウル (1 月 3 日) マイアミ大① 37-14 ネブラスカ大⑧

(丸内数字は AP 通信による最終順位)

バスタブ膨張事件の顛末

昨年 8 月末頃から、我が家のバスタブの様子がおかしくなった。洗剤で風呂掃除をすると、ところどころバスタブの裏側にたまった水が音を立てる。どこから水が入ったのかもわからず、一時的なものだろうと考えて放置していた。9 月に私の両親がワシントンに来る頃になると、バスタブはかなり膨張してきており、親までが心配するようになった。

過去の領収書とかを調べたところ、この家の風呂は、1998 年 10 月にリフォームが行なわれていることがわかった。こちらのお風呂は、家をリフォームする際、それまであったバスタブに新しいバスタブ (ライナーと呼ぶらしい) をかぶせるだけの簡単な作業だ。どこかの防水加工が不十分なら、古いバスタブと新しいバスタブ・ライナーの間に水がたまることは考えられなくもない。ただ、どこをどう見てもどこから水が入ったのか想像がつかなかった。両親が無事日本に帰った後、大家からリフォーム業者名を聞き、電話をかけたところから、約 2 ヶ月にわたる苦闘が始まった。

- 最初に電話した際 (水曜日だった)、業者が状況確認のためにスタッフを翌日行かせたいと言った。私も美澄も木曜日は都合がつかなかったので、金曜日にしてほしいと要望したところ、金曜日にはできるかどうかは明日確認するので、後でもう一度電話すると言われた。待っていた電話は結局かかって来ず、結局金曜日には誰も来なかった。
- もう一度こちらから電話して、今度はちゃんと金曜日に来てもらったが、そのスタッフから、費用見積りについては後日本社から電話があると言われた。1 週間以上待ったが電話は全くかかって来ず、仕方なくこちらから電話を入れて、初めて 250 ドルだと教えてくれた。
- この見積り額を元に、私は大家から作業の了解を取り、業者に修理作業のアポの電話を入れたところ、新しいライナーの製作料と作業代を合わせると 460 ドル前後になると言われ、私は話が違うと激怒。しかし、ライナーの寸法を確認するために来たスタッフは、やはり 250 ドルだと言っていた。
- そしてようやく修理作業開始。12 月 8 日に新しいライナーを携えてやって来た作業員は、持ってきたライナーの色が、我々が使っていたライナーと違っていることに気づき、本社に確認。すると、本社にも在庫がないことが判明し、当日の作業はこれまで使っていたライナーを撤去するところまでで終了。作業員は、立ち会っていた美澄に一言も挨拶せずに帰ってしまい、後で本社に電話してみて初めて本日の作業終了であることがわかった。そして、新しいライナーの据付は 12 月 11 日に行なうと業者の方で勝手に決めてしまっていた。
- 12 月 11 日、ようやく新しいライナーの据付が完了した。作業員は、請求書は後日郵送されて来ると言っていたが、これまでの同社とのやり取りから、私は密かに請求書発送処理を忘れてきていることを祈っている。1 月 5 日現在、請求書は未だ届いていない。

Mikio 平然とお漏らしの記

お兄ちゃん逆襲！

前回の「サンチャイ通信」で千智のトイレ・トレーニングについて述べたが、油断していて兄貴にまでも足元をすくわれるという事件があった。

少々古いが、昇段審査でニューヨークに行った際に泊まったホテルに置き忘れた結婚指輪を取りに、11月24日、ハドソン川を挟んでマンハッタンの対岸に位置するニュージャージー州エッジウォーターに日帰りで行った時の話だ。早々にホテルで指輪を受け取って、近くにある紀伊国屋書店 NJ 店やミツワ（日系スーパー）で少し買出しをすることにした。昼時でもあったし、先ずミツワの中にあるフードコートで食事を取り、次に本屋に行った。本を探している途中で千智がオムツの中にこんもりとウ○チを漏らし、慌てて美澄がトイレに連れて行った。

樹生も当然、どこかでトイレに行かせなければ帰りの4時間ドライブはきつい。だから、食事の後、千智のお漏らしの直後、ミツワで買い物している間と、何度か「トイレは平気か？」と念を押した。しかし、いつも樹生の答えは「行かない。」だった。最初に訪れた紀伊国屋書店で買ってもらった月刊「てれびくん」に気もそぞろなのだ。

お土産を買いたいと言ってミツワ店内に残った美澄達と別れた後、私は帰りの車内でつまめるおにぎりでも少し買っておくことを考え、樹生のトイレのことを完璧に忘れてしまった。そのまま車に戻り、樹生をチャイルドシートに固定した。樹生はさっそく「てれびくん」を開け、仮面ライダーやガオレンジャーに夢中になっていた。

間もなく美澄と千智が戻って来た。美澄が「みきちゃん、トイレ行かなくて平気？」と尋ねたところ、樹生は雑誌のページをめくりながら平然と言った。「うん大丈夫、もうしたから。」見ると樹生のグレイのズボンは、股間の部分がしっかり濡れていた。（本人の名誉のために言っておくが、普段の樹生はオシッコしたい時は、「オシッコもっちゃう！」とちゃんと言う良い子だ。）（浩司）



暴走ドライバー、またも警察に止められる！

私が制限速度違反で警察に捕まったのは5月のことだが、それから未だ1年も経たない12月、またもや警察に車を止められるという事態に遭遇した。

12月15日（土）、場所は我が家から車で15分ほどのフェアファクス市内だ。家族を先に一時帰国させた気軽さから、この日は同市内で開催される10kmのマラソンに出場することにした。レース当日の受付は8時45分締切だったので、8時30分には会場に到着しようと考えて家を出た。

会場近くに来て、二車線道路のセンターライン上にマラソン用のコーンが並んでいるのが見え始めた。私の前に車が数台連なっていて、私はその最後尾にいた。前の車に少し置いて行かれ気味ながら、制限速度30マイルの道路で、40マイル以上出していた。そこで運悪く対向車線を走って来たパトカーとすれ違った。すれ違ったパトカーは、その後すぐにリターンして、天井に付けたシグナルランプを点灯させながら私の車に接近して来た。私は、自分が40マイル以上出していたのはわかっていたので、観念し

て右折できる側道を見つけてすぐに停まった。

私のすぐ後ろに停まったパトカーから警官が降りて来た。彼は、窓越しに私に言った。「免許証見せて。」幸運(?)なことに、この日はちゃんと運転免許証を持って来ていたのですぐに見せた。「時速どれだけ出してたかわかってる?」「40 マイルを越えたくらいです。」「46 マイル出てたよ。どこか行くのに急いでたの?」「ロードレースの受付が8時45分で締切なもので…」

そんなやりとりをしてたら、警告だけで見逃してくれた。多分、私の前を走っていた車数台が全て制限速度オーバーしており、私がたまたま車列の最後尾にいたために止められたということなのだろうし(それだったら警察は意外とフェアだ)、レースの受付場所がフェアファクス警察署の一室だったことから、ひょっとしたらマラソンに出るのに急いでいたことで情状酌量が認められたということなのかもしれない。5月に捕まった時よりも若干スピード出していたのに、この違いは何?

肝心のマラソンを走っていた時、同じような状況でパトカーがリターンして対向車線を走っていた車をサイレン鳴らして追いかける光景を目撃した。パトカーが対向車線にいてもちゃんとこちらの速度を測っていること、そして、本当に捕まえる時はシグナルランプ点灯だけではなく、ちゃんとサイレンを鳴らして急スピードで追跡するということがわかった。これからは、周囲から浮くほどの速さで車を走らせないように注意しよう。(浩司)

編集後記

- 今回は、家族が1ヶ月近い一時帰国をした直後でもありましたので、居残った浩司が勝手に全て編集しました。振り返ってみると、スポーツネタばかりになってしまいました。スポーツネタといえば、触れなければならないのはNBAプロバスケットボールリーグのかつてのスーパースター、マイケル・ジョーダンの現役復帰です。しかも、古巣のシカゴ・ブルズではなく、私達の地元、ワシントン・ウィザーズです。ジョーダンはウィザーズの共同オーナーを2年間務めてきましたが、ウィザーズは昨年NBA東地区最下位の超弱小チームであまりにもふがいなかったのか、自分が現役に戻ってチームを建て直すことにしたのでした。私達も家族4人でDCのMCIセンターに観戦に行きました。丁度ウィザーズは5連敗中で、あまり勝つことまでは期待してなくて、前半終了時に既に夜9時半を過ぎていたので帰ってしまいましたが、その前半の中でもジョーダンの動きは際立っており、豪快なダンクや、3点シュートを何本か決めてくれていました。去年はあまりに弱くて見る気にもなりませんでしたが、今年は時々観戦に行ってもいいかなと思っています。何か来シーズンの阪神みたい?中日ファンの身ながら、星野監督は応援したいと思います。
- 野球といえば、ここのご当地チームはボルチモア・オリオールズ。去年は3回観戦にでかけ、イチローをナマで見たりもしました。ところが、2002年、なんと経営不振のモンテリオール・エキスポスが身売りし、ワシントンのRFKスタジアムを本拠地とすることになりそうです。エキスポスといえば、あの伊良部がいた球団です。伊良部は残念ながら昨シーズン終盤に解雇されてしまいましたが、まだ吉井や大家がいます。また、新庄のいるジャイアンツと同じリーグですので、新庄も見ることができそうです。我が家から地下鉄一本で行ける交通の便が良い球場ですので、来年はもっと頻りに球場に足を運びたいと思います。勿論、ボルチモアにも行きまっせ!子供が見てもわかりやすいルールで、アメフトやバスケットと違ってファンも品が良いので、野球は安心して家族連れで観戦に出かけることができます。
- 最後に、年末年始の一時帰国について速報。元旦を岐阜の実家で過ごし、いざ東京に戻ろうという直前に降り始めた雪は、記録的な大雪。関ヶ原にほど近い私の実家周辺では、40cmを超える積雪でした。お陰で1日近い足止めを喰った上に帰省からの帰りのラッシュにぶつかり、10時間近いドライブに…後の予定が押せ押せで、非常に慌しい中で機上の人となりました。詳細は次号サンチャイ通信にて!